

【特別推進研究】

人文・社会系



研究課題名 少子高齢化からみる階層構造の変容と 格差生成メカニズムに関する総合的研究

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授 白波瀬 さらはせ さわこ 佐和子

研究分野： 社会学

キーワード： 階級・階層・社会移動、少子高齢化、世帯変動、ライフコース

【研究の背景・目的】

日本は他国に類をみない速度で、急激な人口構造の変化を経験した。奇跡といわれた高度経済成長期に突入した1950年代、合計特殊出生率は3.65から2.00へと急激に低下した。その結果、全体人口が急激に高齢化し、65歳以上人口は1950年の5%から2012年には23%に到達した(国立社会保障・人口問題研究所 2013)。このような人口変動を少子高齢化として捉え、本研究の重要な背景として位置づける。

少子高齢化の進展は、家族や世帯構造の変化やその家族/世帯を構成する個人の生き方の変化を伴う。さらに、これらの変化は全体社会に一樣に進行するのではなく、階層性を伴う点が鍵である。そこで本研究は、少子高齢化の観点から、階層構造の実態と格差生成メカニズムを明らかにすることを目的とする。

これまでの社会階層研究は欧米を中心に、労働市場との関係に着目して現役世代を主な対象として検討されてきた。しかしながら少子高齢化とは、高齢引退者が増えて、若年についても失業のみならず非正規労働に従事する者が増え、労働市場における地位を中心に階層構造を見ては、その実態を十分把握することができなくなった。

【研究の方法】

本研究の方法は、社会調査データに基づく実証的アプローチを用いる。具体的には、3つの調査を実施する。第一に、戦後日本社会の構造的な変化を捉えるために、1955年以来10年ごとに実施されてきた「社会階層と社会移動の全国調査」(以降、SSM調査)の第7回目を2015年に実施する。SSM調査は、20~69歳の男女を対象に、はじめて就いた仕事から調査時点までの詳細な職歴情報を含むことが特徴である。第7回調査においても伝統芸としての職歴情報を捉えつつ、人口高齢化を反映させて調査対象年

齢を84歳まで拡大することを予定している。第二に、個人や家族/世帯のレベルで、格差がどのように生成しているのかを明らかにするために、中高年と若年を対象とする追跡(パネル)調査と聞き取り調査を実施する。

研究体制は図1に示すとおりである。1階部分は上記の3つの社会調査実施班を置き、2階部分はそのデータを分析する4つのテーマ班を置く。それらは、制度と構造班、ライフコースと家族班、教育と働き方班、格差意識と福祉観班、である。

【期待される成果と意義】

本研究から期待される成果として、主に4点ある。まず、少子高齢化という人口変動を背景として、社会階層のメカニズムを、家族/世帯の変動と個人の生き方の変化と関連させて明らかにする。第2に、家族/世帯内の親子関係に代表される世代関係やジェンダー関係を積極的に考慮した階層上の地位指標を検討することで、階層研究に新たな分析視角を提示する。

第3に、戦後50年以上にわたって継続してきたSSM調査の伝統を継承しつつ、個人のライフコースの格差生成プロセスに着目するパネル調査を同時並行的に実施することで、階層構造についての精緻な分析を行う。そして第4に、実証計量研究結果を踏まえて、発展的に持続可能な少子高齢社会に向けた政策提言を試みる。

急激な少子高齢化を経験した課題先進国としての日本から、新たな階層理論の構築を発信することが本研究の大きな意義である。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・Shirahase, Sawako, 2010, "Japan as a Stratified Society: With a Focus on Class Identification." *Social Science Japan Journal* 13(1): 31-52.
- ・Shirahase, Sawako (ed.), 2011, *Demographic Change and Inequality in Japan*. Melbourne: Trans Pacific Press.
- ・佐藤嘉倫・石田浩・斉藤友里子他(編), 2011年, 『現代の階層社会』全3巻, 東京大学出版会

【研究期間と研究経費】

平成25年度-29年度
348,700円

【ホームページ等】

http://www.l.u-tokyo.ac.jp/ssm_spr/

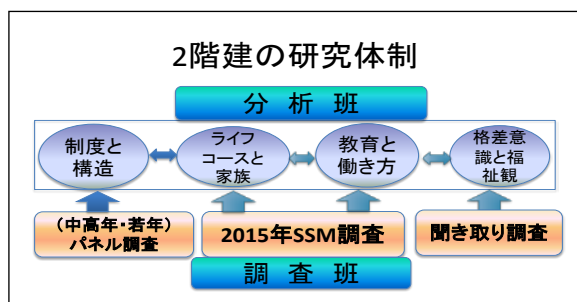


図 研究組織